

目 次

はしがき——研究の理論的な見取り図のために

序 章 子どもの貧困の経験という視点————— I

はじめに	I
1 子どもの貧困の経験と家族	3
1. 子どもの育つ環境としての家族	3
2. 家族の生活と子どもの経験	5
2 「貧困の経験」と「当事者の視点」	8
——貧困を子どもの側からみること——	
1. 子どもの貧困の経験と意識	8
2. 経験の主体としての子ども——その到達点と課題	11
3 子どもの貧困の経験という視点	15
——本研究の位置づけ——	

第 1 章 資源の不足・欠如としての貧困————— 19
 ——本研究の分析視角と課題——

はじめに	19
1 資源の不足・欠如としての貧困	20
1. なぜ資源に着目するのか	20
2. 資源をどのように位置づけるか	21
2 資源とライフチャンス	24
——「貧困の世代的再生産」との関わり——	
1. 前提条件としての所得再分配と資源	24
2. 子どもの視点からの子どものライフチャンス	26
3 本研究の課題と方法	27

第2章 量的調査にみる子どもの生活 33

——ケアの社会化と家族資源の観点から——

はじめに	33
1 分析視角	34
2 子どもの社会生活の現状	36
1. 背景としての子育ての社会化	36
2. 子どもの放課後という新たな課題	37
3. 子どもの社会生活の分化の検討	39
(1) 調査対象のプロフィール	39
(2) 放課後の居場所	40
(3) ケアを必要とする子ども：小学生の放課後	41
(4) 学校で過ごす子ども：中学生の放課後	44
(5) 子どもの社会生活の分化から示されること	45
3 はく奪指標からみる子どもの生活	46
1. はく奪指標	46
2. 子どもの生活を実現する「資源」	48
3. 子どもの生活と資源の検討	48
(1) はく奪指標の構成	48
(2) 資源とはく奪指標との関連	50
4 小 括	55

第3章 子ども期の貧困の経験 61

はじめに	61
1 調査の概要	62
1. 対象者と調査方法	62
2. 調査対象者プロフィール（生育家族の基本属性）	63
2 生活状況の変動と落差	64
1. 貧困のダイナミクス	64
2. 失われる家族の資源	65
3 子どもの家庭生活	67
1. 家庭生活の基盤としての住居	67
2. 家庭生活と物質的資源の不足・欠如	68

4	子どもの生活と社会参加	70
	1. 子どもの日常と余暇	70
	2. 市場化された活動の機会	71
	3. 公的な活動の機会としての学校生活	73
5	他者の関わりと生活	75
	1. 生活の質を高める他者のサポート	76
	2. 他者のサポートの可能性に対する子どもの評価	78
6	生活の評価と受け入れ	80
	1. 子どもは生活をどう受け止めているか	81
	2. スティグマと家族依存の意識	82
7	小 括	83
第4章	子ども期から若者期の貧困の経験へ	89
	はじめに	89
1	調査対象者のプロフィール	90
2	若者はどのような生活を望んでいたのか	91
	1. 選択を実現する資源との接続	91
	2. 状況適応的な選択	92
	3. 展望の潜在化	93
3	若者と家族	95
	1. 若者の生活の基盤としての住居	95
	2. 残らざるをえない者——家族資源の不利と家族のケア	96
4	若者と仕事	97
	1. 仕事につながる社会関係の実際	97
	2. 公共の社会的資源は若者を支えているか	98
	3. 生活を実現する力を奪う健康状態	100
5	自身の生活の主体として	101
6	小 括	102

第5章 貧困の世代的再生産の実際————— 105

——ジェンダーとライフコースの観点から——

はじめに……………	105
1 本章の分析の意義とねらい……………	106
2 「女性の貧困」とライフコース……………	107
1. ジェンダーとライフコース	107
2. 貧困の女性化——ライフコース研究に示される貧困の要因と経験	108
3. 女性のライフコースの「多様化」	109
3 貧困のなかにある若年女性のライフコースと家族……………	111
1. 「成人期への移行」過程の変容——家族に依存できない若者にとっての	111
2. 重なる世代間のライフコース	112
4 貧困の世代的再生産の実際……………	113
1. 親元から離れられない	113
——状況の固定化と停滞するライフイベント『28歳未婚の場合』	
2. 「父を見捨てて」	115
——ケア役割からの脱出『32歳未婚の場合』	
3. 女性役割のなかに生きること	116
——流れに翻弄される人生『30歳既婚の場合』	
4. 子育てにしばられて	118
——稼働による力と自信の回復『32歳既婚の場合』	
5. 貧困の世代的再生産の現れの形	120
5 小 括……………	122

終章 貧困の世代的再生産の緩和・解消へのアプローチの方向性————— 125

——子どもの貧困の経験から考える——

はじめに……………	125
1 子どもの視点から貧困を理解する……………	126
1. 「いま」と「これから」をつなぐ	
「日常的な主体的行為」への着目の重要性	126
2. 子ども自身の生活とライフチャンスとして	127
3. 子どもの視点からの貧困のなかにある生活	129

4. 分配と承認の不可分性	131
2 子どもの視点の貧困の理解から 支援と政策のあり方を考える	132
1. 資源の不足・欠如としての貧困	132
2. 生活を実現するソーシャルワーク的な支援の必要	135
3. 家族依存と家族政策	136
3 おわりに	137

参考文献

あとがき

初出一覧

事項索引

人名索引